

各行政区のご意見・ご提案についての回答

行政区名	ご意見・ご提案	回答
飯前	<p>1. 中長期ビジョンとして、つくばエクスプレス茨城空港延伸への要望活動を行うことが、書かれていますが、茨城空港を拠点に小美玉市の発展・活性化を考えると、現在の状況を見ますと、参入している航空会社の少なさ、それに伴い便数の少なさがあげられます。空港を利用したいの思いは、いろいろな全国の各地に行きたいの思いからだと思えます。民間会社の利益にかかわることなので、難しいことで市として行っているかもしれませんが、ぜひ、県と協力してこの課題に取り組んでほしいと思っています。これに伴い、空港周辺に宿泊所(ホテル等)ができれば、もっともっと小美玉市の発展、活性化につながるのではないかと考えています。これも民間の採算的なことが絡んでくるので、難しいと思えますが、誘致に取り組んでほしいと思っています。</p> <p>2. 重点施策3でも述べられていますが、若い世代の出産・子育てに対する意見として、小美玉市には、個人の産婦人科は、あると思えますが、小美玉医療センターには、産婦人科がないように思われます。安心して、出産を迎え、楽しく子育てができるような支援体制の強化には、このことが不可欠ではないかと考えます。</p>	<p>1. 茨城県に対し「既存就航路線の増便及び新規就航路線の開設」と「空港周辺の企業や宿泊施設などが進出しやすい環境づくりと誘致推進」等について、毎年、要望書を提出しているところです。市としても宿泊施設などの誘致や就航路線の拡充は、空港周辺の賑わいづくりや市の活性化に重要と認識しておりますので、引き続き、県と協力体制を構築し誘致に取り組んでまいります。</p> <p>2. 市内には現在、産婦人科がないため、笠間市や土浦つくば方面、水戸方面へ通院されている状況です。小美玉市医療センターは、平成31年2月より民間移譲され運営されていますが、産婦人科の開設が難しい状況です。身近な場所で安心して出産を迎えたいという市民の声をふまえ、石岡市を中心とした、小美玉市・かすみがうら市の3市で構成する石岡地域では、3市連携し、石岡地域医療計画を策定し「分娩を行える施設の開設支援」を重点施策としております。全国的にも産婦人科医が不足している中、市単独での医師確保は大変厳しい状況にありますので、今後も近隣の市町村と協力連携し、取り組んでまいります。</p>
宮田	<p>1. 小美玉医療センターに産科、小児科を加えて欲しいです</p> <p>2. 県道、玉里、水戸線の三箇下より宮田までの約1kmの改良工事を県へ要望をお願いします</p>	<p>1. 小美玉市医療センターでは現在、小児科の外来診療を週4日行っております。産婦人科につきましては、医療センターを運営している古宿会での開設が難しい状況です。全国的にも産婦人科医が不足している中、あらたに新設することは大変厳しい状況にあることから、石岡市を中心とした、小美玉市・かすみがうら市の3市で構成する石岡地域では、3市連携し、石岡地域医療計画を策定し「分娩を行える施設の開設支援」を重点施策としております。今後も近隣の市町村と協力連携し、安心して出産を迎えられるよう医療体制の整備に取り組んでまいりますので、ご理解をお願い申し上げます。</p> <p>2. 県道玉里水戸線につきましては、従来より茨城県へ整備要望をしております。現在は宮田地内の整備を行っており、三箇下より宮田までの未整備区間につきましても引き続き要望して参りますのでよろしくお願い致します。</p>

各行政区のご意見・ご提案についての回答

行政区名	ご意見・ご提案	回答
下吉影荒地	<p>高齢化社会に対する医療福祉の向上だけでは無く、今後確実に進捗するであろう高齢者への購買・金融環境の整備及び、局所的な防衛省買上げによる他地区転出等の過疎化の現実*特に小美玉市でも下吉影地区は顕著に人口減少及び商店街の消滅が発生しており今後の地区行政活動また、現在進捗している「地区コミュニティの設立」に対して大きな不安要素となっています。市行政としての地域防災含め上記の問題について、具体的展望若しくは、今後の計画としての活性化対策を報告頂きたい。</p>	<p>少子高齢化の進展等により、自治会などの住民組織の担い手不足や、地域を守る消防団の団員数減少による地域防災力の低下など、地域コミュニティの機能に大きな影響を与えております。</p> <p>地区コミュニティ活動の担い手不足や地域の防災力低下の課題に対し、行政区への加入促進をはじめ、まちづくり活動に携わる組織・人材の支援に取り組んでいくとともに、地域での防災活動を行う自主防災組織の新規設立や防災士の資格取得費を助成するなど、その活動の中心となる防災士を増やすほか、地域の防犯力を維持していくため、行政区で負担しております防犯灯の電気料金を来年度より市で負担していきたいと考えております。</p> <p>また人口減少対策として、空港テクノパークや茨城空港アクセス道路沿線への積極的な企業誘致に取組み、雇用の創出と定住人口増を図ってまいります。</p> <p>引き続き、地域の現状、課題把握に努め、きめ細やかな市民サービスに取り組みながら、小美玉新時代に向けた取組みを着実に実施し、賑わいと活力があるまちづくりを進めてまいります。</p>
倉数川向	<p>「小美玉新時代に向けた取り組みについて」の意見・提案書 (全般)安全保障環境の激変による存立危機事態生起の公算が大きくなり、首都直下型地震や異常気象による激甚級災害の頻発傾向、人口減少という「静かなる有事」の進行は、国難とも言える重大な問題。また、世界的には人口増加が進み、食糧危機が叫ばれる一方、日本の食料自給率は低下し、農地の維持も難しい現状。地方自治体においても、国民保護態勢の充実、防災・災害対処、超高齢化や人口減少を踏まえた福祉や各種施策の充実が急務。他方、市民に「夢と希望」を与える施策も不可欠。</p> <p>○5つの重点施策 1. 教育の振興について・・・「グローバルな社会で活躍できる人材」とは、単に語学に堪能だけでなく、日本の伝統・文化を理解し、日本人としての誇り・アイデンティティーを備えることが必要であり、そのための教育上の着意は如何？</p> <p>2. 農業の振興について・・・小美玉市の地域特性から、農業を基軸に据えた施策を推進すべき。しかし、農地の地権者が農業を営むことができない場合が多く、大規模集約化に適さない農地も多い。耕作放棄地も増加の一途。収益性の高い農業を目指し、「共同経営体」を追求することも必要であるが、他方、食料自給率向上や健康寿命向上を目指した「誰でもできる家庭菜園」づくりを推奨する施策を推進すべきではないか。</p>	<p>1. 「グローバルな社会で活躍できる人材」を育成するためには、コミュニケーションのツールとなる外国語（英語）教育ばかりでなく、①異文化に接する国際教育②自分の住んでいる地域のよさを知り、地域に貢献していく郷土教育③職場体験などのキャリア教育④SDGsの視点による環境教育など、多面的な教育の推進が必要であると考えます。</p> <p>(具体的には)</p> <p>① 現在、市内の各学校では子供たちが外国人と直接触れ合う機会も増やしており、身近な外国人であるALTを英語の授業以外の、他の授業や、学校行事、休み時間等においても積極的に活用。ワールドキャラバンなどの活用した異文化交流活動。</p> <p>② 社会科副読本「おみたま」を活用した探求学習。総合的な学習の時間や生活科、社会科などでの体験学習。玉里学園義務教育学校の郷土学習。</p> <p>③ 職場見学・職場体験を実施し、小中学校段階から望ましい勤労観や職業観の育成。</p> <p>④ 総合的な学習の時間や理科などにおいて、霞ヶ浦などの湖上体験学習。総合的な学習の時間でのSDGsの視点による探求学習。ウォータースタンド社との協定による環境についての出前授業。</p> <p>こうした取り組みにより、グローバルな（国際）社会で活躍できる人材の育成を図っていきたく考えています。</p> <p>2. 本市の農業に関する施策につきましては、儲かる農業の実現に向けた取組みを基軸としております。しかし、農業従事者の高齢化などにより作付困難となり耕作放棄地が増加してきている傾向にあります。農地の貸し借りを担う農地中間管理機構（農地バンク）を活用するなど情報を共有し、地域の担い手に農地の集約化が進むよう努めて参ります。また、家庭菜園に関する施策につきましては、本市ではシビック・ガーデンにおいて貸農園を提供しており、指導者を配置するなど初心者でも気軽に農業に触れる機会を設けており、引き続き同事業を推進してまいります。</p>

各行政区のご意見・ご提案についての回答

行政区名	ご意見・ご提案	回答
倉数川向	<p>3. 地域防災の振興について（次の施策を提案）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消防、警察、自衛隊などのOBを防災ボランティアに委嘱する。または、自衛隊OB団体との防災ボランティアに関する協定を締結する。 ・ 国民保護態勢の充実 ・ 安否確認に資する「世帯カード」の作成 <p>4. 2つの行財政改革について・・・同時に、サイバー防護、システム障害、情報漏えい防止等に関わるIT関連人材の確保・育成が重要。</p>	<p>3. 消防、警察、自衛隊などでご活躍された方々は、長年の勤務で養った優れた危機管理能力と豊富な知識や経験を有している方であると思っております。消防、警察、自衛隊などのOBの方や、防災士として活躍している方などのボランティアとしての委嘱や組織化、更には協定の締結などを検討してまいります。</p> <p>国民保護態勢の充実については、災害対応の体制を活用し国と市の役割分担のもと、武力攻撃に対し、迅速な情報伝達、避難誘導、救護のほか、上下水道や道路の早期復旧など小美玉市国民保護計画に基づく適切な行動が迅速に行えるよう訓練等を行ってまいります。</p> <p>安否確認に資する「世帯カード」の作成については、災害時に避難の支援が必要な方の把握や人命の救助活動における重要な情報であると考えております。</p> <p>市では、避難の際に支援を必要とする人を「避難行動要支援者」として登録し、避難計画を作成しておりますが、行政による公助には限界がありますので、地域による共助を進める際の「世帯カード」等の作成では、個人情報の取扱いなど支援を行ってまいります。</p> <p>4. 本市では、DX実施計画に基づき、システム障害時の対応として、システムの冗長化を図り、非常時においても市民の社会生活の維持に必要な業務を継続できるよう対策を講じているところです。IT関連の人材育成については、データを管理する職員に対し、個人情報保護についての研修を実施し、知識の習得を図っております。また、国・県の動向に合わせセキュリティ・ポリシーの見直しを行い監視体制の充実を図ってまいります。</p>
十二所	<p>若い世代の出産や子育てに対する支援の強化は必須であり、どのような支援の強化をしていくのか。共働きの家庭では、保育園、幼稚園へ預けなければならないが、預けるにしても費用が掛かる。そのような支援などは、どう対応するのか。児童一人あたり一律5万円の支給が小美玉市であるが、支給対象者など5万円で楽しく子育てができるのか。どのように支援体制の強化をされるのか。強化はどのようなものが非常に期待している項目である。</p>	<p>核家族化の進行などにより、仕事と家庭の両立や子育ての孤立感・負担感の増加など、子育て世代に対する様々な支援が今求められています。</p> <p>生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児教育の重要性や、子育てや教育にかかる費用負担の軽減を図る少子化対策の観点などから、3歳児クラスから5歳児クラスの児童を対象に、令和元年10月1日から幼児教育・保育の無償化を実施しております。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で、食費等の物価高騰等に直面する低所得の子育て世帯を経済的に支援する観点から、令和4年度の国の事業として低所得の子育て世帯に対して、18歳までの児童1人あたり5万円の特別給付金を給付しており、今後県の事業として同様に低所得の子育て世帯に対して、児童1人あたり5万円を給付いたします。</p> <p>今後の予定として、市内のすべての妊産婦や子育て世帯、子ども達への切れ目ない相談支援を行うため、現在子育て包括支援センターで行っている妊産婦及び乳幼児を対象とした相談業務と、子ども課で行っている18歳までの子育て世帯に対する相談業務を統合し、一体的な相談支援を行うため子ども家庭センターを設置します。妊産婦や子育て世帯が気軽に相談できる環境を整備し相談体制の強化を図ってまいります。</p>

各行政区のご意見・ご提案についての回答

行政区名	ご意見・ご提案	回答
清風台	<p>1.各職員に対し、重点施策に対しての、各職員それぞれの業務に於ける立ち位置を理解出来るような研修を。単に、目の前の仕事をするよりは、遙かに、携わっている仕事が、より意味のあるものになり、より幅広い見識を形成するに有効と考えます。</p> <p>2. DX推進に、是非とも区からの申請や報告、行政からの回答など、役所に出向かずとも、受付け、進捗や、完成見通し、実施時期などの情報を入手できる仕組みを組み込んで欲しい。(例えば、HPIに入り、ID/PW等で、該当部分へのアクセスを得る形などで)特に、提出物に、(互いに、該当案件の把握が容易な様に)ID/シリアルナンバーを付すなどの工夫を。勿論、対面での協議が、有効な事も少なくないが、単純に出来る事は、出来るだけ単純にし、その空いた時間を、より有意義に使って頂きたい。</p>	<p>1. 各種施策を推進する上では、職員一人ひとりが業務理解を深めるとともに、部局の枠にとらわれない柔軟な発想と横断的な連携が重要と考えております。今後も、担当部局・職員とのヒアリング、意見交換を重ねながら、将来ビジョンに対する意識共有を図り、全庁一丸となって重点施策に取り組んでまいります。</p> <p>2. 9月に策定したDX推進計画実施計画に「行政区のデジタル化推進」として記載しています。これまで、区から市への申請や市から区への依頼など、双方が紙媒体で行っていたものは、可能な限り電子データの活用を広めているところですが、今後は、専用アプリの導入を検証しペーパーレスで行うなど、デジタル技術を活用し、双方にメリットのある効率化を進めてまいります。</p>
三箇	<p>TXの茨城空港延伸について、実現後の小美玉市周辺地域のあるべき姿について意見・提案を述べさせて戴きます。TX延伸に伴い小美玉市から鹿行地区、そして成田国際空港までの地域を、巨大な経済圏として新都市を作り上げるという構想です。その理由は、この地域には成田国際空港、茨城空港と2つの空の玄関と、鹿島の海の玄関、そして東関東自動車全線開通すれば、都心はもとより、北関東、東北などへのアクセスの利便性が非常に高くなる地域だからです。具体的には、鹿嶋市周辺は工業地区、成田国際空港周辺は商業地区、そして小美玉市周辺は災害も少なく住みやすい環境であるため、住宅地区として新都市を創造するというものです。新都市構想は世界に通用する「スマートシティ」構想です。これからは国際化は不可欠です。コンセプトは、「一度住んだら離れられない街」です。みんなで作って行きましょう！そのためには成田国際空港との強力な連携も必要です。将来は京成電鉄も茨城空港まで乗り入れてくれるような経済圏を創造しましょう。結果、交通、移動手段の利便性だけでなく、災害にも強い都市が創造出来れば、首都機能を小美玉市周辺に移転させることも国に提案出来ます。20年、30年後先の小美玉市周辺地区、茨城県、首都圏の発展のために、TX延伸を足掛かりに未来に繋がる案を今、検討すべきと考えます。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>水戸市、石岡市、かすみがうら市、小美玉市、茨城町で構成（鉾田市が後日加入）する令和4年5月23日に設立した「TX水戸・茨城空港延伸促進協議会」の設立趣意書には、県全体を持続かつ均衡的に発展させる上で有効な手段であり、TX延伸の実現によって、沿線住民の利便性の向上、観光の振興、海外空路を含めた広域交通ネットワークの形成による交流人口の更なる増加、新たな避難経路の確保に伴う地域防災力の強化など、様々な効果が期待されると記載されています。</p> <p>今後も、県全体の発展、ひいては市の発展に繋がるよう国・県・関係自治体と連携を図っていきます。</p>

各行政区のご意見・ご提案についての回答

行政区名	ご意見・ご提案	回答
花館	人生100時年の時代に合った敬老会のあり方と対象者について考えるべきではないか？	<p>行政区長の皆様には、日頃より敬老会事業にご協力いただきありがとうございます。本事業は、令和元年度まで70歳以上の方を対象とし実施していましたが、県内市町村の敬老会対象年齢を調査し、小美玉市の事業内容を見直した結果、令和2年度より対象年齢を75歳以上と変更したところです。具体的には、経過措置として1年ごとに1歳引き上げ、令和6年度には75歳以上となるよう対策を講じております。なお令和4年度は、令和5年3月31日において73歳以上の方が対象者です。</p> <p>敬老会のあり方については、市民の皆様のご意見と県内市町村の取り組み状況を参考に、今後も検討してまいります。</p>
旭	重点施策、行財政改革は通り一遍の内容。小美玉市独自のもの、具体性のあるものはないのでしょうか？	<p>重点施策の「教育」の分野では、本市の将来を担う子どもたちを地域と一体となって育成していくため、コミュニティ・スクールを推進するとともに、新たに社会教育主事を配置し、地域学校協働本部の設置に向けた体制づくりを行ってまいります。「福祉」の分野では、石岡地域の産婦人科施設の開設に向けて、関係自治体と取り組むとともに、妊産婦や子育て世帯が気軽に相談できる子ども家庭支援センターの設置に向けて取り組んでまいります。</p> <p>また、他自治体にはない小美玉ならではの地域資源を活かす取組みとして、「農業」の分野では、全国に誇れる農畜産物に新たな付加価値を加えた「小美玉ブランド化」に向けた協議会を設置することや、販路拡大に係る経費を助成する制度の導入などを進めてまいります。「商工観光」の分野では、「ふるさとふれあいまつり」と「産業まつり」を一体化した新しいまつりを開催したいと考えております。まつりと花火を切り離し、花火大会として霞ヶ浦湖岸で隔年で実施することを検討しております。</p> <p>「地域防災」では、地域の防災・防犯活動を支援するため、防災士の資格取得費を助成することや、行政区で負担して頂いている防犯灯の電気料金について市で負担していきたいと考えております。</p> <p>行財政改革では、市役所に来なくても、どこからでも申請手続きができるよう、行政手続きのオンライン化・デジタル化等を進めるとともに、デジタル社会の中で、誰一人取り残されないよう、デジタル活用に不慣れな方を対象に、スマホ教室を開催してまいります。</p>
大笹	小美玉市は茨城の中央であり、例えば大学病院等の誘致、地産地消の為、道の駅の誘致など考えてみてほしいと思います。	<p>今後、国道6号小美玉道路が具体化すると、市を南北につなぐ幹線道路と現在開通している茨城空港アクセス道路の東西道路の形成により、更に利便性が拡充しますので、幹線道路沿線への病院など幅広く誘致を行ってまいります。</p>

各行政区のご意見・ご提案についての回答

行政区名	ご意見・ご提案	回答
下鶴田	<p>近年、小美玉市の人口は減少しつつあるように思います。市の活性化を図るには人口の増加が不可欠であると考えます。中長期的に人口増加をしていくには、どのような施策をして行くのか。その取り組みについて伺います。</p>	<p>市の人口減少対策に対する施策としましては、令和2年度に市の人口の現状と分析を行った人口ビジョンの見直しを行い、それを踏まえて第2期小美玉市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定いたしました。この戦略においては若い世代をターゲットにし、4つを政策分野を位置づけ各施策を取り組んでございます。</p> <p>まず、1つ目の結婚・子育てについては、若い世代の不安を軽減し、出会いから結婚までをサポートし、子育てしやすい環境づくりを目指す取り組みです。</p> <p>次に2つ目の地域の魅力については、茨城空港をはじめとした、農産物や歴史・文化などの小美玉の魅力を再発見し、さらにその価値を高めて本市の魅力のアピールする取り組みです。</p> <p>3つ目の仕事の創出については、時代に伴って多様化する働くスタイルに対応した環境づくり、新しい働き方の創造と働き手の働き方を支援する取り組みになります。</p> <p>最後に4つ目の移住定住については、小美玉市での暮らしに対する魅力を高め、それらを発信する取り組みと定住者に向けてまちへの愛着と誇りを育む環境づくりを取り組んでおります。</p> <p>人口増加については、この総合戦略だけでなく、現在、策定を進めている、第2次総合計画の中でも人口維持に向けた市全体の移住定住施策を盛り込んでいきたいと考えております。この課題に関しては、戦略的な取り組みと総合的な取り組みの両輪で、地道にかつ、継続し続けたいと考えております。</p>
上鶴田	<p>国道6号小美玉道路のルート決定は、何時頃になるのか、早期着工と開通を望む。延べ2回のワークショップ等を経てA・B案が示されました。工期が短かく、事業経費が割安なB案が最適と思われれます。本市と関係する石岡市区・茨城町区の関連工事が開始されているようですが、現況を聞きたい。</p>	<p>国道6号小美玉道路については、国土交通省によると今後の環境影響評価の手続きを経てから都市計画決定を予定しております。ご質問にある整備スケジュールですが、茨城バイパス区間の都市計画決定が昭和53年、千代田石岡バイパス区間の都市計画決定が平成9年となっており、整備事業には長期的な時間が必要になりますのでご理解の程お願い申し上げます。</p>

各行政区のご意見・ご提案についての回答

行政区名	ご意見・ご提案	回答
小曾納	<p>区消防団員の減少により消防活動や区内の点検なども出来ない状態です。これからの活動や支援団員制度について説明して下さい。</p>	<p>行政区で組織されている「自衛消防」は、少子高齢化や担い手の減少で団員確保に苦慮されているということは承知しております。そのような中、自衛消防団員の皆さんに水利の点検や夜警、火災発生時の後方支援を頂いていることに市としても有り難く感謝しております。</p> <p>まず、これからの活動についてですが、例えば火災発生時は消火活動など危険な活動に捉われず、消防隊の誘導や情報提供、罹災者の保護などを主として行うことや、夜警など火災予防の呼びかけを通して行政区内の防火意識の高揚を図ることも自衛消防で行える活動であると思われまます。</p> <p>次に支援団員につきましては、令和4年4月1日現在、茨城県内44市町村のうち、15市町におきまして制度が導入されております。消防団活動に参加しにくい住民層にも、より配慮した参加の機会を広げるため、個々の事情に対し特定の活動にのみ参加する制度を設けて、新たな団員の獲得に向けたものでございます。</p> <p>たとえば、火災等への対応では、平日の昼間や夜間等時間帯を限定した活動が可能であり、その他大規模な地震が発生した場合は避難誘導に限定するなど、消防団活動を補完する役割が期待されているものでございます。</p>
竹原	<p>重点施策5:商工観光の振興--主旨～「地元観光資源と企業誘致によるビジネスマッチングの推進」。現状、常磐高速「石岡・大谷インター」から茨城空港までのアクセス道路の交通量は、当初予想を上回り大いに賑わっていると思われまます。特に、当竹原地区はアクセス道路と六号国道が交差する交通の要所となっており、県外からの車も多く見受けられます。一方で、当地区は自然環境に恵まれた地域でもあり、春の希望ヶ丘公園周辺の桜まつり・菜の花まつり、初夏の竹原神社アジサイまつり、秋のコスモスまつり等が開催され県外からの来場者も多く見受けられ、毎年大いに賑わっている地域でもあります。この観光資源をビジネスマッチングに活かした利用(具体的には企業誘致等による地元雇用の促進と地域の活性化)ができると、なお一層の地域の魅了度アップが図れると思われまます。現在の状況はビジネスチャンスでもあります。是非、大型の企業誘致(レジャー施設・ショッピングセンター関連等)を進めるべく、行政(国・県・市)、企業(不動産業・ディベロッパー)、地元(区・地元住民)が一体となって情報交換を図りながら(実現に向けてこちらから仕掛ける体制の構築)将来を見据えた魅力あるまちづくりを進めていくことを望みまます。</p>	<p>茨城空港アクセス道路の国道6号から石岡小美玉SICの区間は、4車線で交通量も多く、ビジネスチャンスが大いにある箇所と認識しております。市としても、企業誘致を進めるにあたり国や県、地元と連携しながら魅力あるまちづくり実現に向けて積極的に推進してまいります。</p>

各行政区のご意見・ご提案についての回答

行政区名	ご意見・ご提案	回答
西明地	各地区のあり方、(メンバー減少、各地区施設の有効活用)	<p>少子高齢化による区を支える方の減少に加えて、コロナ禍の影響によりこれまで通りの取り組みができずご苦労されているところと思います。</p> <p>区民の減少については、対策として転入された方に同意いただき転入情報を区長にお知らせするとともに、加入促進マニュアルなどによる各区との連携により加入促進策を進めている状況です。他にも「小美玉市DX推進計画」に基づく電子化を進めることによる区の負担軽減策や、区に加入していることのメリットを感じられるような脱退防止策などを進めることにより、区民減少の影響を最小限にし、区の円滑な運営につなげていきたいと思っております。</p> <p>また、各地区の施設の利活用については、各施設及び地域全体の状況に応じて活用方法を検討していく必要があると思っておりますので、個別に相談をお受けしたいと思います。</p>
東平	<p>1. 教育の振興「教育施設の格差是正」 羽鳥小は、新築された各小学校と比較して、あまりに施設面での格差があり過ぎます。市内で最も多くの児度が在籍している学校ですが、校舎、グラウンド・特別教室などの教育環境は劣悪です。格差是正を早急をお願い致します。</p> <p>2. 「美野里地区に図書館の建設を」 児童・生徒や保護者、子育てをしているお母さんがゆっくり過ごせる図書館の設立をお願い致します。</p> <p>3. 「その他」 羽鳥地区は、公共交通機関、商業施設、金融施設なども充実しており、移住する世帯も多く人口も増えています。更に市の発展を考えたときに、休日ゆっくり過ごせる公園の整備や、355号バイパス岩間インター付近の開発整備こそ、市の発展の近道と考えています。是非新たな視点での都市機能の整備をお願い致します。</p>	<p>1. 教育環境の改善・充実は、教育行政の中での最重要課題であり、昨年度までは、学校規模配置適正化を市の重点事業として、取り組みを進め、一方で、美野里地区の学校施設でも、教育環境の維持・向上を図るべく、限られた財源の中で、補助事業を活用し、整備を行ってまいりました。</p> <p>具体的には、洋式・乾式化によるトイレ環境の改善(羽鳥小、納場小、美野里中の全てのトイレ)、屋内運動場の大規模改修(羽鳥小、竹原小)、外壁・防水改修(納場小)、ICTを活用した教育に対応すべくLED照明への改修(羽鳥小、納場小、堅倉小、美野里中)、特別支援教室の拡充(羽鳥小)などです。しかしながら、多様な学習環境が求められる今日、現在の学校施設では、教室数など空間的な問題への対応には限界がありますので、今後におきましても、このような課題の解決に向け、大規模改修や増築などといった具体的な手法など、更なる検討を進めてまいります。</p> <p>2. 美野里地区には、現在、美野里公民館図書室及び羽鳥ふれあいセンター図書室があります。公共施設建築物系個別施設計画では、美野里公民館図書室は公民館機能と共に堅倉小学校へ、羽鳥ふれあいセンター図書室は羽鳥駅東口複合施設へ機能移転の方向性を示しているところです。図書館の建築等については、計画内容も踏まえ、今後検討してまいります。</p> <p>3. その他の公園の整備については、地域住民の公園に求めるニーズや公園利用者の動向を踏まえ、今ある既存公園の施設の充実を図り、市民が気軽に集える憩いの場として機能する公園の維持管理に努めてまいりますのでご理解ご協力をよろしくお願いいたします。</p>

各行政区のご意見・ご提案についての回答

行政区名	ご意見・ご提案	回答
新田木谷	<p>1. 重点施策の中に「地域防災の振興」があり、その中に「地域のリスクに応じた市民による防災活動の支援」とありますが、「防災活動の支援」とは何を行うのでしょうか。過去(過去を言っても仕方ないのですが)には市民を巻き込んだ防災訓練がありました。しかし最近なぜか「防災訓練は学校区コミュニティ主催で行うように!」との指示が出ている感じです。「感じ」とはコミュニティでやれるほどの知識や訓練も受けていない。よってやれるコミュニティは限定されているのではないのでしょうか。当コミュニティも同様ですし、学校区区長会としても実施はできないと思います。本当にコミュニティ主催でやるなら、その体制・教育等をしっかりやり、市内コミュニティのレベルを統一し、その中で進化させていくべきと思っています。</p> <p>2. 別な側面から見ると、行政区への加入数は60%弱(個人の想定ですが)であり、かつ退会者も増えている。コミュニティに関してはもっと低いと思われる。「自助・共助」が重要な時代、内容は従来通りで、役目が重くなっていくコミュニティ、区長制度の在り方、「行政区って何!」を行政・市民全体が根本から考え直し、改革すべきとも思います。愚痴かもしれませんが、ご検討よろしくをお願いします。</p>	<p>1. 行政区や学区コミュニティの皆さまには、日頃から防災活動へのご支援、ご協力をいただきありがとうございます。コロナ禍にもかかわらず、昨年度は2地区の学区コミュニティの皆さんの活動に対して支援を行うことができました。</p> <p>内容としては、学校とコミュニティ、地元企業が連携して開催された「地震による避難訓練」、「児童の引き渡し訓練」、「ロープワーク講習」、「地震に対しての備え、企業による避難時の食生活の講話」などの防災訓練に対し、市では打ち合わせの段階から会議に参加し、役割分担のもと当日は物資や災害備蓄品の提供、災害に関する講話などを支援しました。本年度は、9月4日に学校と学区コミュニティが開催した訓練に参加し、災害に関するゲーム・クイズや避難所間仕切り設置、段ボールバットの組立て体験など支援を行いました。</p> <p>10月には、学区コミュニティのイベントに、災害が体験できる自然災害体験車や陸上及び航空自衛隊による車両や人命救助セットの展示、消防署による煙体験ハウスの設置、水消火器による訓練、救急講習、災害備蓄食の試食、ハザードマップの説明など、災害疑似体験や災害リスクの啓発などを予定しております。</p> <p>学区コミュニティ組織は、規模や地域特性のほか歴史的な背景など、それぞれの組織で成り立ちが違うことから、一律に学区コミュニティだけに防災活動を頼るのではなく、地域の災害リスクや実情を踏まえて、それぞれの地域にふさわしい防災組織体制を確立し、地域防災力向上のための施策を検討して参りたいと考えてまいります。</p> <p>なお、行政区などの組織に限らず、企業のショールームで避難所の間仕切りや段ボールバットの展示を行う啓発活動など柔軟な対応に心がけておりますので、地域の会合や小さなグループにおける防災教室や啓発活動など取り組みやすい内容から実施して頂きますと幸いに存じます。</p> <p>2. ご意見・ご提案にある通り、行政区の加入率は、年々減少している状況の中で、「共助」を支えるコミュニティの存在意義が高まっているところです。</p> <p>行政区及びコミュニティについては、それぞれが持つ目的や特長を活かした活動への支援を進める一方、各地域の抱える課題にあった取り組みがしやすくなるよう区長会やまちづくり組織連絡会等における情報交換をすることで、課題の洗い出しや、小美玉市にあった各コミュニティ組織の在り方の検討を進めてまいりたいと思います。</p>

各行政区のご意見・ご提案についての回答

行政区名	ご意見・ご提案	回答
大井戸平山	<p>農業の振興という点で日頃気になっていることがあります。それは、耕作放棄農地、山林問題について、行政がその有効活用のために積極的役割をはたしてほしいことです。玉里地域では、この間地籍調査が実施されましたが、かつての畑が篠竹とクズ、ヤブガラシなどに被いつくされ、人が立ち入ることも出来ない状況でした。これらの場所のいくつかは、ゴミの不法投棄場にもなり、最近、生息域を拡大している。イノシシ・アライグマ・ハクビシンなどのかくれ場にもなり被害が拡大しています。かつてこの日本の美しい里山風景は、今や見る影もない現状です。全国の先進的な取り組みに学ぶと同時に、地域住民の知恵を生かし、拠点的な観光整備だけでなく、地域全体の環境を資源として生かすことが求めらるると思います。かつて有った、美しい農村の姿、日本の誇る里山を蘇えらせる取り組みを願う。</p>	<p>耕作放棄地の解消に有効な施策として、農地の集約化が挙げられます。市では、農地の集約化に向けて農地中間管理機構（農地バンク）を活用し、担い手にまとまりのある形で農地を利用できるように、地域計画の策定を通して働きかけを行って参ります。当該計画の策定に当たっては、地域の担い手や農地の所有者などの方々と話し合いの場を設け、農地の集約化を軸とした地域の農業の将来の在り方を検討して参ります。また、担い手の確保についても耕作放棄地対策の重要な施策であります。市では新規就農希望者の相談窓口として各種支援制度の案内を行っており、県など関係機関と連携してサポート体制を構築するとともに、市独自の支援制度を設けております。これらの施策を通して耕作放棄地の解消に努めて参ります。また、手入れがされず放置されたままになっている山林が増えてきており、景観を悪くするだけでなく、環境問題にもつながるため、山林の所有者が適正な森林の保全ができるよう、民有林造林事業の補助金活用などを広く周知してまいります。</p>
大井戸平山	<p>昨年4月玉里学園義務教育学校が開校した。それに伴い玉里小中学校2校が解体、2校が廃校になった。東小学区においては、昨年11月24日、3区長に対して市より意見交換会が実施された。その中で「小美玉市公共施設建築物系個別施設計画」の中ですべての建物を解体し、広場等として活用すると説明を受けた。地域説明会の実施を要望し、今日1月25日に50名近くの参加者のもと行なわれた。廃校後の利活用に対して、多くの意見が出されたにもかかわらず、市としては「解体ありき」の説明のみで、話し合いが物別れのままになってしまった。その後、パブリックコメントのみが公表されているが、地域説明会の内容について、市長は把握しているか。区長会の意見交換会等で市からの回答、見解は、「地域の活性化につながる利活用をしていく」との事。解体ありまでは今までの回答、見解から大きく逸脱している。今年4月に小美玉市行政は一新した。改めて玉里東小を含め、廃校後の利活用について地域住民が納得できる様な方向で進めていくべきである。再度の地域説明会の開催を強く要望します。</p>	<p>公共施設等総合管理計画及び公共施設建築物系個別施設計画の策定は、引き続き持続可能な行財政運営を行っていくための一つの取組として、市内の各公共施設の方針を示したものです。玉里東小学校の校舎や体育館については、建物の老朽化により、地域の方々が安全に利用するためには、多額の費用をかけ修繕を施す必要があり、利用にあたっては電気水道などのライフラインの確保が必須なため、経常的費用が必要となることから、建築物については解体し広場として整備する方針をお示ししております。</p> <p>地域の方々には、思い出深き建物であり解体への異議があるとの報告も受けておりますが、公共施設の見直しについては、持続可能な行財政運営を推進する上で必要不可欠なものとなりますのでご理解の程よろしく願いいたします。</p> <p>また今後、広場を整備する際には、地域説明会を開催し皆様のご意見をいただきながら進めて参りますので、ご協力をお願いいたします。</p>

各行政区のご意見・ご提案についての回答

行政区名	ご意見・ご提案	回答
田木谷	<p>1.重点施策・・・「(1)教育の振興」 小美玉市には「大学」がありません。小美玉市が目指す将来像に合致した「大学校」の早期誘致を望みます。</p> <p>2.行財政改革・・・「市職員の資質向上策の推進」 市職員のさらなる資質向上と業務改善意欲の向上を図り、市民の為の真に、新しい小美玉市の行財政改革をお願いしたい。</p> <p>3.中長期ビジョン・・・「霞ヶ浦二橋建設の推進」 小美玉市と県南地区を結ぶ道路は「六国」のみです。早期に霞ヶ浦二橋を建設し、振興目覚ましい県南地区との交流を促進し市の発展を図るとともに、「土浦協同病院」への直結道路を設け、市民の安心感を高めていただきたい。</p> <p>4.その他・・・「小児科」・「産婦人科」の病院の誘致 小美玉市には、「小児科」・「産婦人科」の病院がありません。早期に誘致し、市民が安心して暮らせる環境を創造していただきたい。</p>	<p>1.大学や大学校との連携は、専門的人材の育成・確保による産業力の強化や若い世代の移住定住の機会創出などが期待されるものであり、市としても、県内の大学（茨城大学、茨城キリスト教大学）と協定を締結するなど、相互連携の体制づくりに取り組んでおります。</p> <p>誘致につきましては、少子化による大学の再編・統合が進む中、相互のマッチングや立地環境の整備など、課題が多くございます。まずは、既存の大学等との効果的な連携体制の構築に努めてまいりますので、ご理解をお願い申し上げます。</p> <p>2.厳しさを増す財政状況の下、組織の簡素化や業務の効率化を進める上では、職員一人ひとりの能力向上と高度で専門的な知識習得を図る必要があります。</p> <p>職場研修、職場外研修を通し、新規採用職員から管理職に至る階層ごとに必要な接遇能力、マネジメント能力の習得および高度情報化、社会情勢に対応するための資質の向上を図ってまいります。</p> <p>3.土浦市、小美玉市、河内町など11市町村が、平成8年に霞ヶ浦二橋建設促進期成同盟を設立して以来、国・県はじめ関係機関に建設促進を要望してきました。</p> <p>霞ヶ浦二橋は、今後、30年以内に約7割の確率で起こると言われている首都直下型地震が生じた場合の物資輸送や避難ルートとして、都心と県西・県南地域などと結ぶライフラインとなる国民の命を守るルートになることから、関係市町村・団体との連携を強化し、霞ヶ浦二橋建設促進期成同盟の活動を通じて、国・県へ粘り強く早期実現に向けて要望をしていきます。</p> <p>4.小児科につきましては、現在、小美玉市医療センターにおいて、小児科の外来診療を週4日開設しております。産婦人科につきましては、全国的にも産婦人科医が不足し、出産できる医療機関が減少する中、市単独での取り組みは大変厳しい状況にあります。そこで、石岡市を中心とした、小美玉市・かすみがうら市の3市で構成する石岡地域では、3市連携し、石岡地域医療計画を策定し、「分娩を行える施設の開設支援」を重点施策としております。今後も近隣の市町村と協力連携し、安心して出産を迎えられるよう医療体制の整備に取り組んでまいりますので、ご理解をお願い申し上げます。</p>